歯を大切にするための情報をお届けします！

健口ニュース

そめじ歯科医院
089-935-5556

2021年 冬号

発症しても気が付きにくい歯科金属アレルギー

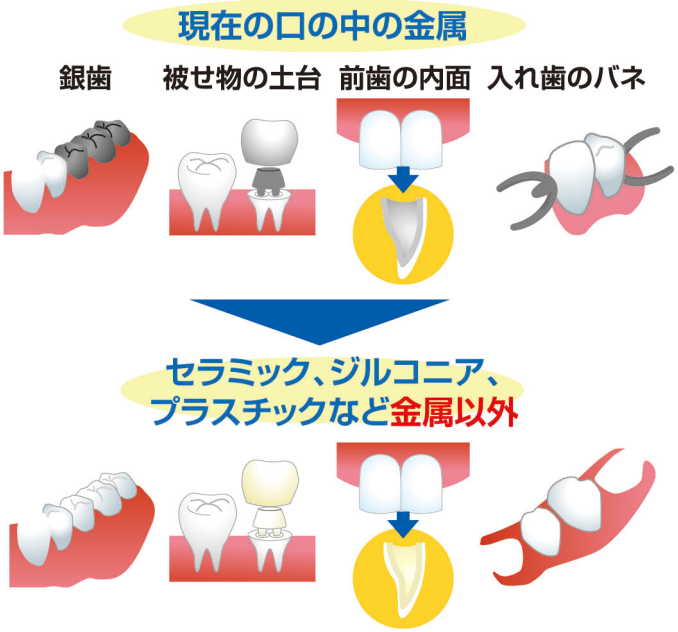
歯科治療で使う金属が原因の金属アレルギーとは

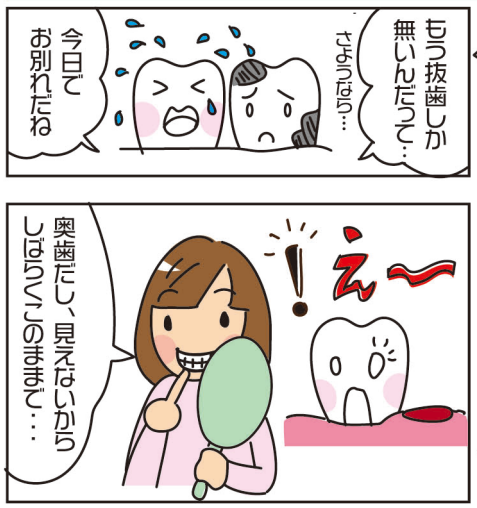
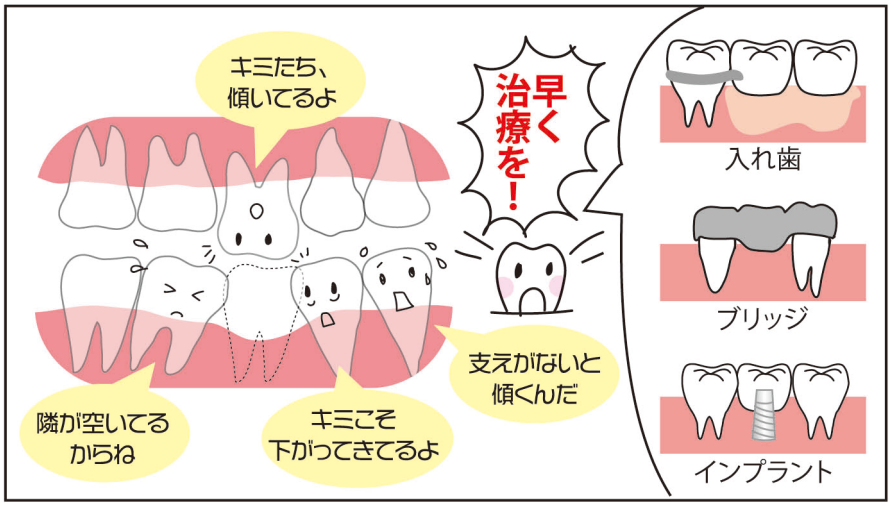
歯科の保険治療では、詰め物や被せ物、被せ物の土台、入れ歯などで金属を使います。その金属が唾液中に金属イオンとなって溶け出し、歯茎を黒く変色させてしまったり、体内に取り込まれて掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、その他難治性の皮膚炎など、様々なアレルギー症状を起こすことがあります。歯科治療の金属が原因のアレルギーは口の中に症状が出ないことも多いため、原因不明のアレルギー症状の原因が歯科金属であることに気づいていない方もいると考えられます。

ノンメタル治療で金属アレルギー対策

金属アレルギーは現在発症していなくても、ある日突然発症する可能性があります。また、発症しても気がつきにくいのが厄介なところです。現在お口の中に金属があって金属アレルギーが気になる方は、セラミックなどの金属以外にやり替えること（ノンメタル治療）もできます。

ノンメタル治療でやり替え



奥歯は見えないから・・・と放置してはいけません

歯を1本抜けたままの状態で長い間放置すると、歯が動いてしまいます。すると、かみ合わせに影響して、治療が難しくなり治療期間や費用も余計にかかってしまいます。